

図書館だより 11月号 奈良大学附属高等学校 図書部 発行



11月に入り、いよいよ秋本番。教室の窓から見える景色がカラフルに色づいてきています。とっても鮮やか。彩りのある季節、いいですね。秋がしだいに深まりつつあります。太陽の沈みも早く夜が長くなると、家の中で過ごす時間も増えてきますね。そんな夜長に、ゆったりとした気持ちで本の世界に入り込んでみてはどうですか。

さて、お詫びです。先月10月号の図書館だよりで紹介した、「読書週間」のポスターですが、あれは2013年の標語とポスターでした。申し訳ありません。今年の標語は

「ホッと一息 本と一息」 あったかな部屋で、あったかなドリンクをホッと一息飲みながら、本と一息ついて、一人の時間を楽しむのもいいですね。



世の中の高校生は、どれくらい読書しているのかな？

全国学校図書館協議会(全国 SLA)と毎日新聞社は合同で、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を行っています。今年行われた「第64回学校読書調査」の結果を少し紹介しますね。

『5月の1カ月の間に本を何冊くらい読みましたか?』という質問では、
0冊・・・56%
1～3冊・・・36%
4～7冊・・・6%
8冊以上・・・2%



昨年同様、高校生の半分以上が、1カ月の間に1冊も本を読んでいないという結果が出ています。(昨年よりも、6ポイントも増えています。) 年々、高校生の読書人口が減少している様子が見えてきますね。『どんなときに本を読みたくなるか』という問いでは、「ひまな時間ができたとき」という回答が56%。学校の勉強や塾や部活動などで忙しい毎日を送っている高校生にとっては、“本を読もう!” という心のゆとりがなかなか持てないのが、読書人口減少の要因のようですね。ちなみに、高校生の、1カ月に読んだ本の平均冊数(読書量)は、1.3冊です。

物事を考える力は言語力が基礎となります。この言語力をつける上で、読書の重要性はますます高まっています。大学入試においても、思考力、判断力、表現力が問われてきています。こういった力を育む助けとなる読書。高校生のみんなにとって、もっと身近なものになっていくといいですね。

今現在、図書館入ってすぐの掲示板には、ここ最近の映画のポスターと、その原作本が並んでいます。たくさん話題の小説が映像化されています。気になるものがあれば手に取ってみてくださいね。本を読むひとつのきっかけになるといい

ですね。

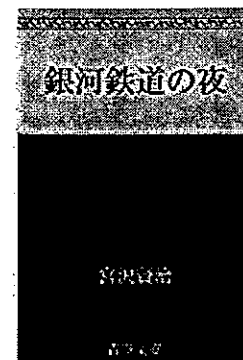
また、あらゆる世代を対象とした「読書世論調査」では、『日本人の読み書き能力の不足を感じる可能性があるか』という問いにおいて、「不足していると感じることがある」と答えた人が82%もいました。これは、読み書きするときに、スマホや携帯電話、パソコンを使うからという理由が多いようです。他にも、文章をあ

まり書かないから、本を読まないからなど・・・。SNSの普及で文章がどんどん短くなってきています。でもそれでは、物事を深く考えることはできません。自分の言葉を増やし、深く物事を考える力を蓄えるためにも、やはり読書は大きく影響します。



図書委員 今月のオススメ

1年H組



銀河鉄道の夜
宮沢賢治
青空文庫

～あらすじ～

貧しく孤獨な少年が、パンを盗る、親友とムバネルと銀河鉄道に乗って美しく静かな夜の旅をする。永遠の未完成の傑作です。

～宮沢賢治について～

宮沢賢治の代表作は「銀河鉄道の夜」だけではありません! その他の宮沢賢治の著書は、「となりの山」や、「オリーブと我」などがあります。宮沢賢治の言葉はいつだって心の奥深くに響いてくるので、みなさんもぜひ宮沢賢治の本を読んでみてください!

2年B組



山月記

著者 中島 敦
出版社 文学界

あらすじ
李徴という男が虎になってしまい、哀憐という親友と出会い話し合うという古文的な物語。

感想

難しい漢字が多いので内容があまり入ってこないし、理解ができない気がする。

おすすめ理由

理解できればおもしろい話だし、もししたら高校のテストの範囲にでもかもしれないから予習に読んでおくのもいいと思う。

10月の図書館利用状況

1年生	2年生	3年生	合計
118人	96人	218人	432人

10月は中間テスト(3年生は期末テスト)に向けての勉強で、自習の利用が多かったです。どの学年も、利用者が大幅にUPしています。3年生はAO入試や推薦入試の本番を控え、準備をしている生徒もいました。広い机で、静かで落ち着いた環境ではかどっているようです。フレッツ、フレッツ、受験生!!!

